

## 観測手引

 (11) 遊星面の観測

### 水、金、土星の観測

當課の仕事としては、火、木星の観測を主としてゐるが、それ以外に、水星金星及土星の観測も奨励し且報告を受理してゐるので、以下、この3遊星の観測につき、その要點のみを記しておく。

**水星**——都會では勿論、田舎でも餘程都合が好くないと見られない。金星に比し視直径も小さくて、小望遠鏡には適せず、尠く共15種を必要とし、金星同様晝間高度の高い時に赤道儀の度盛環によつて探し當て、観測するのが良く、肉眼に見られる様な頃は地平線上スレスレの時だから、そんな際は観測は全然出来ない。大體としてアマチュアに適しない遊星である。が、表面の模様は、金星より濃く且安定してゐる。

**金星**——水星同様、晝間双眼鏡か度盛環を用ひて探索して観測すべきである。表面は、何分厚い金星の大氣の上層を見てゐるのだから、判然とした模様は見えず、時々淡黒い斑紋や輝いた白斑が見えるが、特に後者の白斑をうまくキャッチして、これを連続観測する事によつて、その自轉時間の決定に資するのだが、其観測は非常に難しい。今迄、全世界での一流の天文學者が観測した結果が、全部異つて居り、其差異も、全然桁が異ふのを見て如何に其観測が難しく且正確なものか伺ひ知られよう。生まれ、10種紋にも出来る仕事だから、特志家を待つ。観測方法は、晝間又は薄明の頃を狙ふのだが、淡いムーン・グラスを使用する事も秘訣の一つだが、或は15種以上の反射鏡の銀をさつて観測するのも一方法である。金星は光輝が強過ぎる星だから、必要に應じ、眩惑を感じない程度に減光させて見る様にする事が肝要である。全て、白く光つたものの上には薄暗い斑紋が見え易いと云ふ人間の眼の事だから餘程注意して観測に従事すべきである。

**土星**——天界のピエロ、土星は、正直な所、難しく観測をするより、其美しい姿を望遠鏡で心行く許り眺めてゐる方が楽しみなものであるが、記事の都合上観測方法を述べる。木星より扁平率は強い。表面の模様は10種にも認められるが、詳細は20種以上を必要とするが、先年、白斑を發見されたのは16種反射鏡だつたから20種以下でも決して不足ではない。

環(リング)を最も良く見る爲には、其最もよく開いた時を良とする。10種になれば環が三重より成立つてゐる事が判りカッシーの空隙もシーイングさへ良ければ明瞭に見え、銳眼には最も内側の縮輪環(クレプ・リング)も認められる。15—20種になれば、クレプリングは明瞭で、エンケの空隙も見えて来る。シーイングの良い時20種以上の反射鏡に300倍以上を使用して見た土星の美しさは、星の愛好者へのみ天から與へられた最美の観物である。木星よりも高倍率が使用出来る。環に寫つた本體の神秘的な影等、他の遊星に見られない獨得の美景である。環が地球及太陽に對して水平になつた時は頗る淋しいが、この時は又別の興味がある。目下環は、年々開きつつあるから、益々その美しさを増して来る。觀望から一步進んで観測に進んで頂き度い。(伊達生) ——(以上)——